

本年の日供神饌講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、茨城県講元講員の皆様により大膳職以下所役をご奉仕いただき、賑々しく齋行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げる次第です。

饗宴祭特殊神饌 菱の実

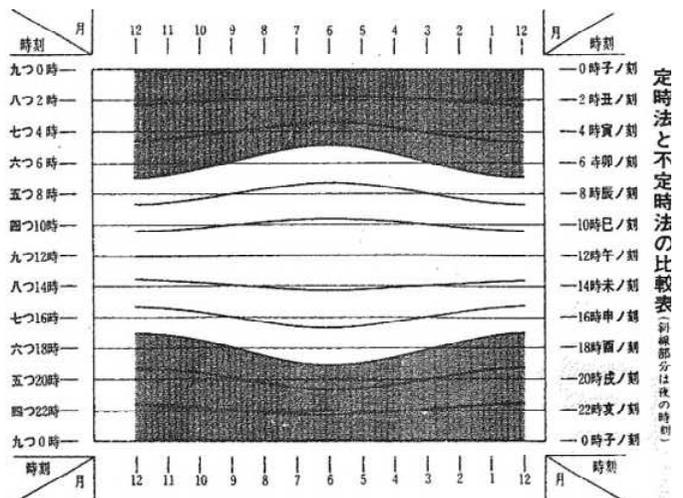
饗宴祭の特殊神饌として菱の実をお供えています。菱は池や沼に生える水草で、水底の根から長い茎を伸ばして、水面一面に放射状に広がって多くの葉をつけます。菱形ということばのとおり葉は菱形で、実もまた菱形に尖った形をしています。菱の実を乾燥させたものは、二本または四本あるとげが鋭く、忍者が追手の追撃かわすために撒く撒き菱にはこれが用いられたとされています。漢方としても滋養強壯、消化促進の薬効があり、その成分には炎症に効果があるとも抗ガン作用があるともいわれます。これらの点から魔除け・厄除けの呪力があるとされました。かつては食用としても重要であったとのことで、万葉集にも菱を摘む歌があり、江戸時代の文献にも食用としての利用法や漢方としての薬効が記されています。桃の節句の菱餅は形が菱形であるだけでなく、菱の果肉をすりつぶした澱粉を入れることもあるといわれています。



菱の実(左右4cm)

日本の近代化と時の記念日

六月十日の時の記念日は、天智天皇が大津宮で漏刻を作って時報を始められた日として知られ、近江神宮では毎年漏刻祭を行って御



祭神に感謝の誠を捧げています。時の記念日は大正九年(一九二〇)から始まり、近江神宮の御鎮座の昭和十五年はその二十周年の年であり、御創建の建設工事の地鎮祭は昭和十三年の六月十日に行われました。

明治六年、太陽暦への改暦とともに江戸時代の不定時法から現代と同じ定時法へと改革されました。不定時法は季節によって異なる日の出・日の入りを基準にした時刻制度で、日の出前の薄明のころを表わす明け六つでいえば、夏至と冬至では三時間以上の差がありますが、一般庶民は時計を持たず、十分な照明もない時代、明るくなったら起床して仕事などを行い、暗くなったら休むような生活だったので、明るさに合せた不定時法が、むしろ庶民の生活には合致していたといえます。そして、現今でも〇〇時間ということばが折々自嘲気味に使われますが、時計のない一般の人々にとって時間通りに人が集まらないのは当たり前で、待ち合わせ時間も相当に悠長なもので、少々遅れても怒る人は少なかったようです。

しかし明治維新ののち殖産興業から近代国家に向う政策の上で、近代的な時刻制度の普及と時間厳守は不可欠のものとなり、特に庶民生活の間では学校や工場、軍隊、鉄道などが、時計の普及とも相まって定時法の浸透を後押しすることになりました。そのような

時の記念日

生活改善改盟會

この六月十日は千二百五十二年前長くも 天智天皇が漏刻(水時計)を用ひ給ひて報時の事を行はせられました日に當ります。我等は斯様な由緒ある日を記念に將來一層時間を尊重し定時を勵行致したいと思ひます。

● 訪問の時間

- 一、先方の迷惑する時間の訪問を慎むこと。
- 一、訪問は豫め時間を打合せること。
- 一、前軍や用談は支店店頭で済ませること。
- 一、面談は用談から先きにして速く切り上げること。
- 一、來客は待たせぬやうにし、已むを得たる時は時間を豫告すること。

● 宴会の時刻

- 一、開會の時間は指張せぬこと。

◎正確な時計 時間の勵行には正確な時計が第一に必要であります。正確な時間に合せるには午砲の外に最寄の電信局及停車場に行くがよろしい。

一、指定の時刻に遅れぬこと。

● 飯食の時間

- 一、登壇の時間を正しくしを勵行すること。
- 一、食事の時間を定め之を勵行すること。
- 一、日々一定の整理運動の時間を定め励行すること。

● 職務の時間

- 一、出勤及退用の時間を勵行すること。
- 一、勤務と休息の時間を區別し時間を察せぬこと。
- 一、取引約束の期日を違へぬこと。

第1回時の記念日のチラシ (改盟會は同盟會の誤り)

かで、大正中期に至っても近代的な時間秩序が定着していないと考えた当時の人々は、時の記念日の活動を通して時間勵行を徹底させ、一定時間当りの成果を高める効率性を重視するとともに、有意義な時間の使い方の意識や公共奉仕の精神を涵養し、産業の発展、国力の充実に資したいと考えたわけです。

時を守る会本年の標語

◎周年に当ります。現代の日本の鉄道や航空機の定時運行の正確さは世界一であるとして賞賛され、ジャストインタイム方式というこ とばに表わされるような、時間に 緻密な社会となりました。太陽、 月、地球という時間を形作る大宇

宙の仕組みはまた神々の働きともいえます。その恵みに感謝するとともに、漏刻をもって時報を開始された天智天皇の御事績を回顧し、このような近代日本の歩みと先人の偉業を振り返り、時刻の認識の

大切さと近現代の産業社会に資した役割に思いを馳せたいものです。

舞楽面の奉納

去る三月、面打ち師の柏田閑径氏の舞楽面五点が奉納され、三月五日、奉納奉告祭が行われました。柏田氏は大津市内在住の面打ち師で、日本能面技術協会副会長を勤められたこともあり多くの作品が残されています。今回奉納いただいた舞楽面は、近江神宮に奉納するために丹精込めて作られたという「蘭陵王(らんりょうおう)」「納租利(なそり)」「抜頭(ばとう)」「還城楽(げんじょうらく)」「還城楽(顎と連動する)」の五点で、後日宝物館に公開展示する予定です。



本年後半の祭典行事

- | | |
|--------------|----------------------|
| 七月七日午前十一時 | 燃水祭 |
| 七月二十日・二十一日 | 全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会 |
| 八月二十四日午前十一時 | 弘文天皇祭 |
| 八月二十四日午後一時 | 献書祭 |
| 十一月三日午後〇時三十分 | 流鏝馬神事 |
| 十一月七日午前十一時 | 御鎮座記念祭 |
| 十二月一日午前十時 | 初穂講大祭 |

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/> 「日供神饌講」ページ